

グループホーム しじみ苑

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念は「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」を掲げています。みんなで思いやり助け合うこの気持ちは、利用者・家族・スタッフとの連携を取りながら本人の気持ちを尊重した介護を提供させて頂いています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		利用者・家族・職員全ての人達が目にする場所に理念を掲げ、認知症高齢者の介護をさせて頂く中で、お互いの気持ちを理解する事で思いやり・助け合う事を見直し理念に沿ったサービスが提供できるよう日々努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		利用者が安心して生活が行えるのを一番に考える中で家族と連携を取りながら支援している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣には小学校・併設したケアハウスがあり、その周辺の住民も含めた行事などを行っており、子供達や近所の方達と交流を図ったり行事に参加できるように努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		併設しているケアハウスと合同での行事や近隣の小学校と交流を取り入れたり文化祭で作品を出品したりと地域との関わりに努めている。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			地域の高齢者はゲートボールをしたを行ったり1年に1回旅行と4月に花見を行っている様なので、花見に参加できないか相談を行うつもりである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で評価された内容を参考に職員が意見交換をする事で改善が出来るよう煮努力していきたい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			2ヶ月に1回を基本に会議を行うように定められているが確実に出来ていない事もある。会議の際は市町村や家族、近隣の住民との参加者もいるが報告は出来ても意見交換という形までに至らないのが現状。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は同じ市町村住民である代表者やスタッフとの交流もあり、堅苦しく無い環境ではあるので会議以外でも分からない点や共に取り組まなくていけない事に対し行き来が出来ており連携してサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			制度について知らない事が多々あり、研修や参考書などで理解するように努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			虐待はないが、理解がなかなか得られない認知症高齢者に対し行動を制止・制限してしまう言動がスタッフ間に見受けられる。日頃の業務内で気づいた点はその都度話し合いや注意など行っている。勉強会なども取り入れて取り組んでいきたい。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族とは来苑時、電話などにより状況報告を行ったりお互いに相談しやすい関係作りに努めている。問題等を起こしたり、体調不良などで病院受診が必要な時は家族に説明し理解と納得をしていただいている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ひとりひとり性格的なものもあり、自分の意見や不満、気持ちをスタッフに伝えたり他の利用者に対する状況等を教えてくれたりするので介護を提供する際に反映させる事ができる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族は定期的に来苑されその都度報告している。また、電話等で随時必要に応じ連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部や家族からの苦情が出たときは代表者に報告し、早急にミーティングを開き問題改善に取り組んでいる。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者は併設しているケアハウスの施設長でもあり、常時近くにいるので職員の意見等は管理者が聞き入れ、代表者に報告している。またミーティングには代表者にも参加していただいている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤帯3人配置。状況によっては管理者が協力し業務に支障が出ないように利用者や家族のニーズに応えられるようスタッフ同士が協力し合い調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は極力控えているが、利用者に対するダメージを少なくするため離職との引き継ぎを充分に行っている。</p>		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用に当たっては、年齢や性別は対象から排除する事は無く、最低でもヘルパー2級以上の資格を取得している者、また経験者優遇ではあるが初心者でも指導するスタッフを置き不安等を与えずその人の能力が發揮できるように指導しながら対応している。採用の際は代表者と管理者で話し合っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングの際は代表者にも参加して頂き、利用者に対しての思いやりや理念の内容に沿ったケアサービスの提供の仕方等を考えをスタッフに伝えている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部講習や地域の病院院長が開催している認知症症例勉強会等があり進んで参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			<p>運営推進会議で市町村に同町の同業者殿交流会を開く機会を設けてみてはどうかという話しが出ており試みてみようとの返答あり。交流会の機会を利用して、今後は上手く反映できれば良いと考えている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>代表者が食事会を開いて頂いたりしている。また、それ以外では直接スタッフと話す機会を設けスタッフ個人の気持ちを傾聴したり相談に応じたりしている。</p>		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々となるべく関わりを深め、個々の状況を把握しようと努力している。また、研修等、参考になる様な内容については参加を促している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の希望を聞いた上で本人と直接会いに緊張や不安を話しの中から受け入れてもらい少しずつ心を開いてもらえるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族・利用者より状況・生活歴・相談に至るまでの経緯を聞き、苑に対しての要望や困っている事をなるべく聞くようにしている。そして、苑の方針や理念を説明し家族の緊張をほぐし安心して頂けるように対応している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と連携を取りながら利用者が一番困っている事や今一番何を求めているのかどうしたいのかを日々の生活から見極めて対応して行く。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は環境の変化に非常に敏感であり、良くも悪くもしてしまうので家族から生活歴や性格、昔していた職業等の情報を得た上で苑での生活に少しずつ馴染んでいけるようコミュニケーションを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的雰囲気を大切に利用者と一緒に喜びや悲しみ、怒りや楽しみの関係を築けるように努力している。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には問題や困っている事を話すだけではなく利用者が苑で見せる笑顔や楽しかったことを家族に話せる事も支援の一つであると思うので家族と協力し合って利用者を支えながら関係作りに努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状況を家族にも理解していただくことでケアの内容を報告したり家族側からの要望を確認しながら良い関係作りが築けていけるように努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会があり、それ以外にも町内会の高齢者や友人が面会に来られている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとりひとりの性格が違うので職員が把握して対応する事で食事やレクリエーション・おやつ、行事では全員一緒に交流が図れるように支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その時の関係だけを大切にしているも次に繋がらないので契約が終了しても何時でもまた戻って来て欲しいという事を家族に説明して受け入れる気持ちを伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりとのコミュニケーションの中に暮らし方や希望が見えて来るのでその時の希望や意向を聞き出し利用者を選択し決めて頂いている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や思い出を大事にケアを行っていきながらその人の尊重を把握しながら努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ひとりひとりで心身状態が把握できない人もいるので常日頃から個人の生活パターンを把握し観察している。また、自己にてできる事は理解して過剰な介護を提供しないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや毎日の業務の中で利用者の情報をその時その時で話し合い、定期的に来られる家族にも話し合いその意見を反映させて計画書を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週1回のモニタリング・評価を出し、突発的な問題点が生じた場合は必要な関係者と話し合いをし計画書を作成し直している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の毎日の介護記録の重要性を職員に理解してもらい、記録を記入してもらっている。そして、その中で、身体的・精神的な変化が見られた場合は見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事の参加を行ったり、本人の要望を伝えて家族にも参加していただいたり対応していただいたりしている。		福祉車両を利用して自宅までの送迎を行っていききたい。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			現状、本人の意向や必要性の協力は難しく、併設のケアハウスと協力をしながら地域住民と関わっていききたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具事業者とは本人の身体状態により話し合いをし取り入れている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			権利擁護など取り入れた事がないのでその時の為に地域包括支援センターと連携をとっていききたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在のかかりつけで本人が納得しているのかを本人や家族に確認し、他の病院での受診を希望している場合には意向に沿い病院受診の援助を提供している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に認知症専門病院があり、医師と上手く関係を築きながら相談やアドバイスを頂き治療の支援を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			地域の個人病院では行き慣れた馴染みの関係作り・環境で安心感もあり気軽に話や相談が可能であったりするが、総合病院だと難しいように思える。希薄さを感じてしまう部分がある。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が必要となった場合、ソーシャルワーカーと話しを進めながら本人の身体状態を把握し安心して退院出来るよう連携を図っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			今後はグループホームでも看取り介護が取り入れられるので代表者と十分な方向性を話し合い、その上で本人・家族とも話し合いをし連携をとっていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			今までにこのようなケースが無いため、代表者と話して検討したい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化で、認知症の進行が懸念されるので、職員や家族との情報交換や話し合いをしながら十分検討し本人にストレスや不安を与えないよう十分に考慮しながら対応している。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの生活歴を大切に声掛けやコミュニケーションの対応を大切にしつつ今の生活も大切である事を心がけている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	長年行ってきた習慣があり、屋内は本人に行ってもらいながら、出来ない所は職員と確認しながら支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の日々の生活の中で自分で出来ない所を本人と確認しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時では着る服を選んだり美容院は希望時に送迎したりと支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片麻痺や皮膚疾患があるため、材料を切ったりする事が出来ない方もいるので、後片付け等で自分で出来る範囲の事をしていただいている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒やタバコを希望される方は今までいない。おやつは10時と15時に提供している。		飲酒やタバコの管理については本人と家族とで話し合いをし支援していきたい。
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンチェック表を確認しながら随時誘導を行っている。失禁や排便時は本人のプライドを傷つけないように介助を提供している。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一年を通して一日おきに入浴を提供している。心臓病や皮膚疾患の利用者がいるので医療と連携を図っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活パターンを把握しながら居室で休息をしてもらい夜間の睡眠に支障が無いよう配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を知る事は重要であるが、認知症高齢者ケアには現状での生活レベルを把握しながら余暇活動を生かしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状態によっては家族や本人の希望により預かり対応している。買い物への支援は希望を聞いて職員が対応したり同行し支払いの際は極力見守りで支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のケアハウスや地蔵参り等、体調の良いときに屋外活動の支援をしている。		屋外散歩の活動は利用者みんなで声を掛け合いながら車椅子・車椅子を押す人、歩行器や杖を利用して屋外散歩を行い季節感を感じていただいている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事の支援を行っている。		利用者の1人が徘徊や不穏・興奮から落ち着かなくなるので、外出にも範囲が限られてくるのでこの事を改善していきたい。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から利用者へ電話がかかってきたり、利用者の希望時は状況に応じ電話を掛ける支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家庭環境や状況、今までの生活や付き合いにより面会に出来ない利用者があるが、その他の利用者は家族や親戚・友人や老人会の方々が来られ居室で話しをしてもらおうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる			拘束のないケアを行っている。家族にはある程度の拘束に関する理解はあると思われるが必ずしも理解しているとは言いきれない部分があるので勉強会や資料を準備して改めて理解して頂くよう努めていきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は施錠する事は絶対にしない。玄関にセンサーを設置しすぐに対応出来るようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングには対面式でいつもスタッフが目の届く範囲で所在確認をしている。外出時は職員が付き添いを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は職員が管理を行い、利用目的を聞いて本人が使用できるように支援している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・火災マニュアルを準備し消防訓練も行き、勉強会でも利用者が苑での生活に安心・安全に過ごせるよう取り組んでいる。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルを作成しいつでも見られるように連絡経路等もミーティングで認識するが、気になったときにはその時職員みんなでミーティングを行うようにしている。		外部講習会などを取り入れ実践訓練を行いたい。応急手当に関しては資料等で把握してもらっている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			地域住民の参加を希望して声掛けするが、参加が出来ていないのが現状。併設のケアハウスと協力して地域住民との関わりに力を入れたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	定期的に面会のある家族にはその都度利用者の報告を行い問題に対しての解決策で家族との連携をとる事により利用者が安心して生活できるように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、水分チェックや排泄チェック、睡眠チェック、バイタルチェックを随時行っており常にコミュニケーションを図るようにし気づいた事や普段とは違う変化等がある場合は細かくケア記録に記載するようにしているので少しでも変化が見られた際はスタッフ間で情報を交換して対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にスタッフの目の届く所に利用者ひとりひとりの処方箋が準備されており、おおよその把握はしておくように伝えている。また、主治医より薬の副作用等の説明が行われた場合はスタッフ間に連絡し確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分量を最低でも800cc、1000ccを目標に水分摂取をこまめに提供している。また、食事内容で食物繊維にも配慮し料理の工夫も行っている。飲食だけにこだわらず日頃の活動量も極力増やすようレクリエーションで工夫している。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔清拭の声掛けをし利用者の状態に応じ誘導や一部介助提供し清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行っており栄養管理や水分管理を行っている。食事・水分の制限がある人は、医療・家族と連携を図りながらその時に応じて対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策研修会に参加し、対応の仕方などを皆で勉強している。また、感染した際はかかりつけ医や専門医と連携を取り対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回(土曜)に冷蔵庫チェックを行い、賞味期限切れ等の食材が無いかを確認し、あれば処分・冷蔵庫内の掃除や消毒を行っている。調理器具や布巾等もこまめに消毒をしている。(塩素系)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階木造平屋作りの屋根瓦の家屋である。屋内天井が高く開放的である。玄関の周りに花や植物を飾っている。		苑周辺には空き地があるので季節の野菜の栽培・花の手入れを取り入れていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるリビングや食事テーブルは天井が高く開放的なので利用者達も日中は殆どソファに腰掛けテレビ鑑賞をしている。また、レク活動等を行う事により利用者や職員間のコミュニケーションが図れている。		玄関には季節感を忘れないで欲しいので利用者やスタッフとの共同作品を飾っている。

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日の生活は基本的に自由であるが利用者はフロアで過ごされている。ソファで利用者同士が交流を図り過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居するにあたりグループホームの役割や方針を家族に説明し使い慣れた物や大切な物を持ち込んでいただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は全室の換気を行い、食事作りの内容によっては臭いがこもりがちになるので気をつけながら換気を気をつけている。温度調整は利用者からの意思表示を受けその都度調整している。利用者の衣服にも十分気をつけている。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで手すりが設置している。浴槽内には滑り止めマット、シャワーチェアなどを利用し事故防止に努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の長年の生活を聞きながら好きな事や嫌いな事を把握して、介助を提供しながら自信を持って活動していただけるよう声掛けにも配慮しながら対応している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	冬は余り活用されないが夏は午前中は日光浴や夜は花火をしたりと活用している。日常的には爪を切るときなどに利用したりしている。		建物の周りに木を(季節)植えるが育たないので別の案を検討中。

グループホーム しじみ苑

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム しじみ苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)